

伊勢市教育研究所

たより



<第 10 号>

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo>
E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成 31 年 1 月 23 日
伊勢市教育研究所
伊勢市桜木町 55-1 (旧さくらぎ保育所)

伊勢市公立幼稚園協会研究指定・伊勢市教育研究所 教育研究プロジェクト

◆◆ 神社幼稚園公開保育研究会 ◆◆

温かな「人とのかかわり」の中で育つ子ら♪

今年度の教育研究プロジェクト「幼稚園教育に係る実践研究」を神社幼稚園に委託し、11月20日(火)に公開保育研究会を開催しました。

神社幼稚園では、子どもたちが社会情動的スキル（忍耐力・自己制御・自尊心など）を身に付ける機会が希薄になってきている現状を踏まえて、研究テーマを「人とのかかわりを通して知る喜び」と設定されました。「幼稚園は『子どもたちが人とかかわる楽しさや自分だけでは知り得ない経験ができる場』である」というとらえに基づき、環境構成を様々に工夫しながら研究を進めていただいております。

公開保育では、5歳児（さくら組）の子どもたちが、劇あそび「ももたろう」や「ももたろう」ダンスに挑戦する元気いっぱいの姿を見せていただきました。

全体会には事例検討会を取り入れて新しい公開保育研究会の形を提案いただき、有意義な学びの時間となりました。



劇あそび「ももたろう」熱演中！



鬼ヶ島の場面「もう悪いことはいたしません！」



キレッキレの「ももたろう」ダンス！

★ 5歳児（さくら組）の保育について ★

- 担任の中川先生は、子どもたちを4歳児から持ち上がり、現在11名の保育に取り組んでおられます。先生は、「クラスの数少ないことや個々の興味の違いなどに起因する友だちや教師などとの『人とのかかわり』についての歪さ（いびつさ）」を感じておられました。そこで、子どもたちには、友だちや教師のすることを見たり、一緒に行動したりすることをおして、「知る喜び」をたくさん経験させたいと考えられました。
- この願いを実現するために大切にされてきたのは、子どもたちに「何を」「誰と」「どのように学ばせるか」を明らかにした「カリキュラムの作成」と「環境設定の工夫」に基づく実践の積み上げです。事例報告の中にも、子どもたちの成長を温かく見守り、見届ける先生方の愛情いっぱいの関わりを感じさせていただきました。



★ 全体会の協議録 ★

参観者から…「5歳児ならではの活動」

- 子どもたちの意欲から生まれた劇には値打ちがある。
- 5歳児ならではの時間や空気の流れがあった。声をそろえるところはきちんと発表できていた。セリフを忘れた子へのフォローができていた。
- 神社小学校の文化祭からつながる活動ということで、子どもたちは生き生きしていた。なんとよく働く「おじいさん」と「おばあさん」であったことか。ズンズンと大きくなっていく桃太郎も興味深かった。

保育者から…「成長の証」

- 鬼ヶ島に向かう場面の「レッツゴー！」というセリフは、絵本にはなく、子どもから自然に出た言葉である。
- 子どもたちの中に、「桃太郎」ならできるといふ思いがあったようである。
- 共同制作を通して、「人を助けること」「人を助けられること」が分かってきたようである。ここにきて急成長したと思う。
- 劇の終わりのインタビューで、文の形式できちんと答える園児がいたのは、お誕生会で話をしたり、放送当番をしたりするなかで、話し方を身に付けたからである。「ぼくは～。」「わたしは～。」という話し方は、秋からできるようになってきた。
- 活動の最後に「あやとり」を全員で行うことができたのは、母親から教わった園児から、昨日広がったばかりである。興味をもってみんなが教え合った結果である。



照れながらもインタビューに応じます！

参観者に「ありがとう」のタッチ！



円になって事例検討会を行いました



助言者 田口 鉄久先生より

(鈴鹿大学こども教育学部教授)

<劇あそび「ももたろう」について>

- 楽しい劇を参観したが、豊かにしていく方法は、今後ますます出てくると考える。
(歌やBGMの挿入の工夫など)
- 「あやとり」や「物語」など、日本に昔からあるもの、伝統的なものを子どもたちに伝えていくのも園の役割である。
- 子どもたちがみんなの前で自分を語ることは大切な活動である。しっかりと評価をしたい。園では、これまでも子どもたちが自分の思いを語ることに取り組んできているが、不特定多数の人の前で語る機会は、なかなかないことである。その中で自分の言葉で語ることができたのは値打ちがある。この経験が、後の学びにつながるのである。

<事例「セミをつかまえた！」について>

- 子どもが「セミをつかまえる」という活動には、高度な技術が必要である。「手の動き」・「手の丸み」・「タイミング」・「判断力」・「力加減」…それができる子どもが近くにいることが、視点園児の活動意欲につながっている。子ども同士のサポートもこの事例では大きな影響があった。子ども相互でつかまえようと工夫して活動できたこと自体が、園の研究テーマに迫っている。
- セミの出来事を通して、子どもたちは「命」のことも学んだようである。最後に、子どもから「放してくるわ～」という声があったことが、その現れである。

